

〔重修本草綱目啓蒙三十三〕練鵲中

別ニ一種和名ニレンジャクト呼ブ鳥アリ、雀ヨリ大ニ、伯勞ヨリ小ク、全身灰紅色、首ニ冠毛アリ、

味黒色、尾ハ黒色ニシテ末ニ深紅アリ、兩翼風切ノ色黒クシテ、末深紅色ニシテ端白シ、コレヲヒ

レンジャクト云フ、漢名十二紅江府志ト云フ、翼ノ深紅色相並ブ故ナリ、又形稍大ニシテ風切ノ末

黄白深紅雜リテ、尾端黄色ナルヲキレンジャクト云漢名十二黄同上ト云、木曾山中ニ多シ、ソノ性

飛翔群ヲナス、因テレンジャクト名ク、時ニ庭中ニ來リ樹實ヲ食フ、囿ヲ以テ捕ヘ樊畜ス、ソノ得

意ノ時、尾ヲ披キ首ニ被リ、孔雀ノ舞ガ如シ、

〔喚子鳥下〕れんぞやく ひれんぞやく有、きれんぞやく有、 ゑがひ 生五分、あをみ入、 粉壹分、

大きさはよ鳥ひれんぞやく有、きれんぞやく有、にちいさし、總身す、竹色、かしらにれんぞやく有、はらきいろ、羽さきと尾のはし

にくれなるのいろ有、きれんはうこんの色まじりたり、ひね鳥成べし、囀り惡し、秋の末に出る春

又いづる、

鶯名稱

〔新撰字鏡鳥〕鶯四字。久比須。

〔倭名類聚抄十八〕鶯陸詞切韻云、鶯、鳥壘反、楊氏漢語抄、春鳥也、

〔箋注倭名類聚抄七〕萬葉集所載田邊福麿歌集、哀弟死去作歌、春鳥訓字久比須、新撰字鏡、鶯、鶯略

鶯、鶯字久比須、出雲風土記、法吉鳥、蓋是、按字久比須、法吉、皆其鳴聲、中按說文無鶯字、段玉裁曰、

詩鳥鳴、鶯、出自幽谷、本不言何鳥、昔人因、似離黃之聲、出谷、遷高亦似離黃、出熱土而登樹、故

就、鶯改、鶯、爲倉庚之名、唐、試士以、鶯出谷命題、本毛詩也、古者倉庚名、離黃、名、糴黃、名、楚雀、名、黃栗留、

黃、鶯、留、不名、黃、鶯、亦無、鶯、字也、惟、高誘注、呂覽曰、含桃、鶯、桃、鶯、鳥、所、含、陸璣詩疏云、黃、鶯、留、幽州人謂

之、黃、鶯、鶯、字、始、見、要、因、其、聲、製、字、耳、果、名、依、高、誘、作、鶯、桃、爲、是、鄭、注、月、令、作、櫻、桃、者、乃、俗、人、所、改、詩、交

交、桑、扈、有、鶯、其、羽、毛、公、云、鶯、然、有、文、章、也、鶯、絕、非、鶯、唐、人、耕、韻、鶯、注、鳥、羽、文、也、瞿、注、黃、瞿、也、一、韻、中、可